

嶺南地域共創センター

ニュースレター

福井大学と子どもが共に考える、あそび場の未来

令和7年12月9日（火）に高齢者と子どもが共同利用できる「あそび場」の設計に向けたワークショップが、美浜町のあおなみ保育園で実施されました。当日は同園の園児や職員に加え美浜町職員、本学工学部の西本准教授と学生らが参加しました。

本事業は、令和5年度から西本准教授が美浜町と進めてきた「あそび場整備」に関する協議の一環です。昨年度は美浜町保健福祉センター「はあとぴあ」内に全天候型遊び場の計画を策定し、今年度はその計画案に基づき、あそび場の設計、整備することを目的としています。ワークショップでは、園児が3つのグループに分かれて、用意された10分の1サイズの模型や様々な人形を使って自由に遊びました。参加した学生からは「初めての企画で不安もあったが、ワークショップを通して子どもの自由な発想力や想像力に触れることができた。今後、ご高齢の方へのヒアリングも行い、はあとぴあのあそび場設計に活かしていきたい。」とコメントがありました。

今後は、ワークショップで得られた子どもの創造性や遊び方の分析を進めるとともに、シニア層へのヒアリングも行い多世代のユーザーニーズを反映した「あそび場」の整備を行っていく予定です。



ワークショップに先立ち
本学学生が園児に説明



あそび場の模型で園児が
遊ぶ様子

価値創造型PBLによる敦賀市現地調査と地域課題への政策提言

地域の課題や魅力を直接体感し、現場で得た情報を基に新しい視点で地域創生の可能性を探ることを目的として、本学の学生らが令和8年2月9日（月）から2日間にわたり、敦賀市で現地調査を実施しました。

本調査は、本学地域創生推進本部附属創生人材センターが、「価値創造型PBL（問題解決型学習）」の一環として企画したものです。本学の学部・大学院生23名が4つのグループに分かれ、市内のインキュベーション施設を拠点に、独自のテーマに沿ったフィールドワークを行いました。

1日目は、敦賀市のインキュベーション施設の経営者や、コーヒーの抽出技術を競う全国大会で優勝した地域で活躍する同年代の方々と交流するなど、グループディスカッションやインタビューを通じて、地域で活躍する方々の「現場のリアル」を学びました。

2日目は、各グループから子どもの好奇心を育む取り組みや、食の情報発信に関する提言などについて発表しました。本学教員からは、「現場に足を運び、生の声を反映させた提案がされた。ここからもう一步具体化を進めてほしい」や「これからも自分が見たもの感じたものを大切にしてほしい」と講評がありました。

敦賀市での2日間の調査活動を通じて、学生一人ひとりが地域社会との関わり方を真摯に考える貴重な機会となりました。



学生らがグループワーク
を行う様子



経営者らに提案する様子

【発行・取材】福井大学 地域創生推進本部 附属嶺南地域共創センター

【敦賀サイト】〒914-0055 福井県敦賀市鉄輪町1-3-33 福井大学敦賀キャンパス内

【小浜サイト】〒917-0069 福井県小浜市小浜白鬚112 白鬚業務棟3階

ホームページはこちらから→

